

せたかむい

発行・古平町史編集室
古平町文化会館842-2590
第124号・平成12年1月1日

年表で読む

古平の歴史

《32》

■明治初期の町の治安

明治の新政府ができたといっても、箱館付近では、榎本武揚らの率いる幕府側と政府軍の戦争が続いていて、明治二年五月ようやくこの戦争も終わりました。このような世の中の不安定な時代、古平郡内の治安状態はどうだったのでしょうか。

明治三年、小樽に開拓使仮出張所があったころ、古平郡など管轄区域の警備を担当する係がありました。実際に現地に來て警備をするということはなかったようです。

このころ開拓使古平出張所には、この方面の警備のために、十二丁の洋式銃と弾薬が置かれていましたが、その内の四丁は

錆びていて使えないので取り代えてほしい、と開拓使本庁に掛け合ったそうです。

実際に銃を使つて取り締まりをするような事件はなかったようですが、たまたま雑蔵(ぞうくら)を襲つた熊を厳島神社付近で撃ち殺した、という話は伝えられています。

■町内巡視で表彰

明治七年、総代(そうだい)町内の代表)や伍長(ごうちょう)町内の親睦をはかり、役所からの伝達などに当たつた)が中心となつて受持ち区域の取り締まりをかね、自主的に防火の巡視をしていたところ、開拓使古平出張所から次のような書き付けと酒肴料が与えられました。

其町村取締之為メ毎夜火之廻り等格別ニ指揮行届奇特之事候依テ為酒肴料金貳円五拾錢被下之候事

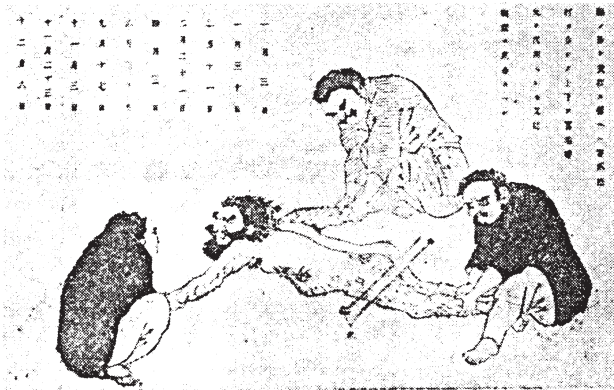
明治七年九月二十五日

■ムチによる罰

明治八年六月、開拓使古平出張所は廃止になり、古平詰所となりました。

△答罪一尻のところを打つ▽

明治八年・開拓使印刷物より



十月に警察の規則が変り、それまでの邏卒(ろそう)という名前が巡査と改められました。

そして明治六年に廃止された答罪(たきい)竹のムチで打つという刑罰の方法が、札幌本庁管内で再び認められることになり、古平詰所でも行われるようになりました。

この刑は懲役百日以下の軽犯罪者に限り、一日につき一つの割で打つことになっていて、答(むち)・杖(つぎ)を使い、獄舎の前庭で行われました。

係の者が、上図の尻のあたりにある二本の線のところを打つが、答二十のときは、上の方を十打つてから下の方を十打ちますが、元旦・紀元節・天長節・札幌神社祭の日には刑は行われませんでした。

迎春

平成12年元旦

古平町史編集室



4/20 昨夜来の雨が小降り

になったが、道路は泥田のよう
だ。昨夜から鯨模様が有り、朝
には一帯に掛かった、群来村で
十五、六杯から一桮、群来村か
ら入舟町、港町にかけて七、八
杯から一桮、歌棄山中一桮、刺
網はやや薄かったが五、十本、
時化模様になってきたので、皆
網揚げを急いでいる、きょうの
水揚げは八千石ぐらいはある、
これで累計一万八千石、今日の
漁でまずはほっと一安心、浜に
も活気が出て来た。代議士選挙
当日だが、鯨で一向に盛り上が
らない、たいていは東候補に投
票したことだろう。

4/21 時化模様だが入舟町
で五、六杯、歌棄山中、沢江で
七、八杯ぐらい、この日、千五
百石ぐらい、累計で二万石には
なろう。

4/22 鯨魚はない、池に放
した金魚をすくに行ったが、
まだ雪が少々あってとれない。
横山煙製所のところは広い道路
が出来ている。

4/23 衆議院、札幌郡部の
得票状況が新聞に出ていた、

東 武 三、一五九票

次点 植田 一、六九三票

夜、火災予防で町内を廻る。

4/24 鯨魚はさらに無い、
漁期ももう八分どおり過ぎたら
しい、カレ釣りのほか、マスも
二尺ぐらいのが沢山釣れるとい
うのでテグスがよく売れる。

山菜を取りに行く人が多く、い
よいよ終漁らしい、これで本年
の鯨魚も終わりだろうが実にあ
っけなかった。

高野名幸作さんの日記から



【25】

4/26 鯨魚も昨年、一昨年

から見れば不漁だ、平均よりも
一万石も少ない、余市浜中から
祝津、高島、銭函辺りは皆無と
のこと、それから見ればまだ上
の方だ、風が出て来たので、火
防組合でまた廻る。

4/27 ダシ風がずいぶんと
強い、砂塵を飛ばしている、火
防組合の招集があり、新開町、
土場方面を廻る。熊さん、五時
ころからカレ釣りに行って一時

ころ帰って来たが、二モッコ半
ほども釣って来た。

4/30 一昨日からの風雨も
止んで、海もナギてきた、夜に
なって、急に鯨模様が有るとい
うので浜では大騒ぎ。

5/1 鯨模様が有るとい
うので浜に出て見ると、丸山岬か
ら港内にかけて七、八杯から一
桮とれた、群来村、沢江、沖村
は時化で投網でできなかった、五
月に入ってから漁はもうけも

のだ、この日、五千石とれた。

5/2 鯨魚あり、前浜から
歌棄方面間で一帯にとれた、刺
網も二、三本、この日二千石、
累計二万四千石。

5/5 鯨魚も終漁だろう、
刺網の人たちは網洗いをしてい
る、納屋下ろしも始まった、今
年は十五日ほど早い切り上げ
だ。十一時から役場で農会評議
員会がある、エンドウ、イモノ
試作について協議する、海産物

は突飛なほどの値段だ、漁柏の
上の値段は千八百二十円、胴鯨
千四百円、昨年より五割高だ、
漁は半漁でも値段が高いから昨
年の八分漁か、平年漁にはなっ
たろう、数の子四千八百円、前
代未聞だ。

5/8 身欠がポツポツ出廻
る、値段が良いので景気づく、
時化で二千トン級の汽船が避難
している、綿糸の暴騰も甚だし
い、小樽に問い合わせたが、三
月よりも二割も高い。

5/9 網の客が来るように
なった、日司から二人、婦美、
美国からも来て五十五円ほど売
る、薄利多売でやれば確かに売
れる、今後この方針で進んで
いこう、夜、風が強いので火防
組合で巡回をしたが、手が冷た
い。

5/10 海産物の暴騰は天じ
ょう知らずだ、カズノコが五千
百円だという。

5/11 昨晚、前浜の田岸、
本陣歩方で四、五杯とれたとい
うが珍しいことだ。この日、三
百石とれた。

爺さんカラスの昔話

優しかった人間様



富山市 高橋 藤蔵
(元・稲倉石鉱業所勤務)



わが輩はカラスじゃ。

今年の正月は、西暦二〇〇〇年とやらで、人間社会では殊の外賑わつとるようじゃが、おいらカラス族にゃあ何の関係もかわりもない事じゃ。

腹をへらした孫どもがカアカア言いながら新年の挨拶にやつて来たんで、お年玉に野兎の肉をタンマリと食べさせ、わしが爺ちゃんカラスから聞いた昔話をしてやった。

× × ×

さあさあ、皆なこつちにおいで。それはのう、祖父爺さんカラスが生きておった時の事じゃと言つとつたで、今から四十年も前の事になるかなあ。

人間どもは、おいらが鳴くと不吉の前ぶれじゃと嫌がるよう

じゃが、そもその起こりはこいう事なんじゃ。

昔・昔のその昔。わが国が豊草原の千五百秋の瑞穂の國と崇められた神々の御代から、大政奉還がなされた明治のご維新まで、あつちこつちで絶えず国取りや権力争いが起つていたのじゃが、その度に多くの死者が出たそうじゃ。

その屍が、おいらカラス族の格好のエサとなり、周りにいる一族や仲間を呼びあつていたのを人間どもが勝手に

「嫌な泣き声だ。不吉なことば起こりそうだ」

「カラスの野郎は、悪いことばっかりしやる」

「しーしー。あつちえ行け」と怒つていたんじゃ。

祖父爺さんカラスが住んでいたところは

北海道後志国古平郡古平町

大字沢江村番外地 森の奥で、こんな山奥に稲倉石という鉱山と、六〇〇人ばかりの人間様が住んでおったそうじゃ。

当時はエサが不足で、栄養失調気味だったカラス族は、人間どものスキを見ては、軒に下げている乾魚を失敬したり、飼いだの食事を失敬しておったそうじゃが、仲間が多いもんだから満腹する事もできんのじゃ。

エサの取り合いから喧嘩になるんだが、オイラにすりえあ命をかけての生存競争というもんじゃ。こんなとき人間様から「カラスのヤロー、ギャアギャアうるせエな」

なんて言われることもあるんじゃが、でも、ここ稲倉石の人間様は大したもんじゃだ。オイラ一族を住民の一員として扱ってくれたそうだ。

祖父爺さんカラスが初めて移住したころは、石を投げつけられたり、毒餌を撒かれたりされていたんじゃが、何しろ我が一族の数が多しもんだから、投げ

る石も毒餌もなくなり、仕方なくエサとなるものを焼却炉で焼くことにしたらしい。

「焼くなんて勿体ねえから止めてよ」

「お願い。ちよつとだけちよと頼んだらしいが、ちつとも分かつてくれなかつたそうじゃ。

でも、ここ稲倉石の人間様は心が優しかったそうで、憎いはずのわしらに、どんなに近寄つても追わないし、逆に

「何んとなくメンコイネ」なんてオベンチャラすら言つてくれたそうじゃ。

そんな住み良かった稲倉石ちゆうところとは、浜町の大きな道路を登りつめた山奥のどつてんにあつたのじゃが、今では誰も住んでおらんし、荒放題の獣道になつとるらしい。

あのように温かく優しい人間様はいなくなつちまつたが、昔の稲倉石はとても良い人ばかりじゃたと言つておった。

× × ×

さあ、夜も明けたようじゃ。お天気も良さそうだし、皆なで初日を拝もうか。

古平の名勝地

霊場 観音滝ものがたり

《6》

■観音滝霊場の整備

念願の観音滝の命名式も盛大に終わり、観音滝霊場建設のため町内からの寄付を求めたところ、町内外から多くの賛同者があり、一、〇八八八人の人たちが

寄付に応じ、金額は四七三円七〇銭に達しました。これに命名式当日のさい銭四円八〇銭を加えて、道路の整備や付属する施設の建設が行われました。

道路整備費 一〇〇四〇〇銭

周辺の刈払い 一〇四〇〇銭

石工賃金 四八四六四銭

休憩所一棟 五〇四〇〇銭

印刷物代金 一〇四三〇銭

供物・施設費 九九四八〇銭

消耗品代 五四七一銭

備品代 八四一一銭

奉戴費 一一四〇〇銭

合計 三四三五六銭

差引残額積立て維持金 一三四四九四銭

施設費として、観音滝を望む高台に*1祠(ほこ)を建てて観音像を一体まつり、かたわらに岳轉和尚の詠んだ歌を刻した石碑を建てました。

■観音滝入仏供養式

大正十三年十月十七日、いよいよ準備もとのつて、大勢が待ち望んでいた入仏式が行われました。

この日は朝からあいにくのみぞれの雨となりましたが、三百人をこえる参詣の人たちで会場はいっぱいとなりました。

この入仏供養式の準備委員長(町役場助役)米田岩吉は、次のような式辞を読んでいます。

「……本日、神嘗祭(かみけまつり)の日を卜し、ここに観世音のご本体を勧請して入仏供養の式典を挙ぐるに当たり、かくも多数のご臨場を忝うし盛大に諸事滞りなく遂行し得ることは、これひ

とえに観音のご加護によるとは申せ、皆様の厚き信仰のこめれるご援助の賜物と深く感謝する所なり。思うに観音の滝はここに面目を改めて霊場と化し、南無観世音大菩薩のお恵みにより滝の水はいよいよ清く流れて五穀を豊穰ならしめ、また古平の岸打つ浪に注ぎて豊漁満足となり、一同の幸福歓喜の声は、この水上の観音滝に響くこととなりぬべし。ただ霊場として信仰の杖を曳くのみにあらず、この風光明媚なる山水の画中の人となりて、四季折々の清遊を試みるもまた決して徒爾ならずと信ず。希くば永えにこの事業を翼賛し、今回の目論見をして最も意義あらしめんことを……」

また、発起人である祝聖会を

代表して*2高橋常三郎(帝国電燈㈱北海道支社古平営業所長)が祝辞を述べました。

■丸山青峯 観音

元・新地分教場(現在のふるびら温泉)の裏手、積丹方面が一望できる高台に観音像がまつられています。出漁する船や、帰って来る船が遠くからでも見

えることから、海上の安全を祈願する人たちが、いつごろからかここに観音をまつっていました。

西の丸山観音に相對して、東の観音滝霊場が新しく開かれましたが、翌大正一四年、ここにも観音像を安置することになりました。

さらに航海の安全を図るため、高い支柱に赤色灯を点灯することにになり、寒修業によるそのための資金集めが、祝聖会などによって始められることになりました。

*1 その祠は昭和三〇年ころまでは建っていました。その後、年月が経って腐朽したことや雪で倒壊したのか、現在では全く残っていません。

また、観音滝の水の流れ落ちる崖にも観音像を一体まつたといわれていますが、確認されていません。

*2 高橋常三郎が建立した観音像は、今も観音滝へ行く途中の道路ぶち、やや高いところに置かれています。

ハつづくV

断章小説 「ふるさと遙か」

反抗の軍歴

Ⅵ

吉川 義雄

伝統とか、歴史とかをやたらに誇って、自慢にもならぬ制裁ばかりが横行している、霞ヶ浦海軍航空隊に嫌気がさし、吉野と平田は、何度も南方部隊への転属を願ひ出た。

やつのことで、最新鋭の彗星艦爆部隊が四国の松山で編成されるとかで、二人揃ってその部隊に転属することになった。早春の日本は美しかった。

瀬戸内海の島々も、沿線の海辺のまちも桃の花盛りで、これから征く南方戦線へと続く旅ではあったが、戦争という愚かしい行為とは無縁の、平和という美しい本来の姿であり、吉野も平田も、その美しさに声もなく車窓から飽かずに眺めた。

各他から集まって来た兵士で一部隊が数日のうちに編成された。戦闘機と見違えるほどの小

柄で精悍な機体は、日本で初めての水冷式なので機首が尖り、胴体の中に二百五十キロの爆弾を格納して飛ぶので、戦闘機に負けないスピードが出る。

こんな新鋭機を扱う兵士たちだから、下士官も兵も、早くから専門教育を受けて来た者ばかりで、彼等はすぐに対応できたが、古くさい赤トンボの練習航空隊からやって来た、吉野も平田も惨めであった。整備どころか、機体にも触ることのできない雑役ばかりに廻された。

当初、二人とも気づかなかつたが、彗星整備の特訓を受けて来た一等兵は、そのほとんどが彼等より六カ月前に入隊した者たちで、全部志願兵であった。

その日の作業が終わわり、いつでも就寝出来るころ、「整列」という海軍の伝統とかの序列制

裁が始まる。何のことはない、上の者が下の者を、軍人精神を入れると言う名目でブンなぐることである。下士官が兵長を、兵長が上等兵を、上等兵が一等兵を、そんな手順のほかに、先任が後任をとということもあり、各級の自己主張や示威もあるから、いくら気をつけていても、災難は防ぎ切れないものであった。

吉野も平田も、目に余る霞ヶ浦での「整列」を体験して来ているので、新編成のこの部隊でも、じょじょにそれが始まっていくことに猛反発していた。

先任の一等兵たちが、集団をつくって吉野たちの仲間をいたぶってきたことも知っていた。しかし、彼等二人だけは、何回「整列」をかけられても無視していた。

初夏の夜。二人を名指しで第三格納庫前に来いと指示が伝えられたとき、吉野も平田もニヤリと不敵な笑顔を見合させた。

吉野は剣道を警察の道場で教わっていたが、自分でもおぼつかない腕だから、海軍入隊時、

記念に鎌倉で買った短刀を腰に結わえつけ、配給の棒せつけん先の先をとがらせてポケットに入れた。

平田は大学時代、空手部に籍があり、めったに見せないその実力を、吉野にだけは霞ヶ浦時代からひそかに見せていた。

月明りの第三格納庫前には、十人をこす一等兵の先任たちが先に来て待っていた。

二人とも先に手は出さぬと決めていたから、「おいッ、吉野ッ、平田ッ」と、居丈高に呼ばれも説教が始まって、彼等二人は身じろぎもしなかったし、「分かったかッ」と怒鳴られても、折から飛んで来た蚊を、腕に止まらずともビシャリと叩くのが二人の返事であった。

「おい、もうやめるべよ。みんな見ろよ、吉野も平田もやる気だ。おめえたちも、くだらねごとぐ並べるのもうやめれ。二人ともご苦労さん、帰ってけれや」彼等のリーダー格、会津二本松出身の男の声で、月夜は美しい間まで終わった。

ーこの稿終わりー

北海道・樺太・千島を探険 ①

最上徳内

蝦夷草紙

を読んでみましょう

戦前は小学校の教科書にも

載っていた、北海道地方の探検で有名な最上徳内の著書に『蝦夷草紙』があります。『蝦夷草紙』（二冊）は、天明五年（一七八五）に初めて蝦夷地に渡ってから、合わせて七回も蝦夷地や千島・樺太を探検して、それを広く全国に紹介した本です。

書かれていることは、すべて自分の体験や直接聞いたことがもとになっていて、今からざっと二百年前のことです。が、読んで見てもなかなか興味のある本です。

直接、古平のことは書かれてはいませんが、当時の蝦夷地のことを知る上で大変貴重な資料となっています。

ことばを書き改めて、まえがきから、項目ごとに紹介することになります。

▼まえがき

松前のある島は周囲が八百里ほど（三千百キロ余り）もある。田畑は無く、産物のとれるところを領地として家臣に貸し与えているが、それらはみな海辺で、そこへは松前の商人らが行って、蝦夷（アイヌ）の人たちと交易をしている。これを蝦夷介抱（えぞかいほう）といっているが、実際は利益のために行っているのである。

まず、その場所に商人どもが集まり、蝦夷人介抱ということ、そこで交易をするために請負人となる人札をし、金額の最も高かった者へその場所の交易の権利を与えるのである。

場所を請負うことになった商人は、松前でアイヌとの通訳や支配人、番人などを雇う

とその場所に行かせ、米・酒・たばこ・木綿・小間物の類を船に積んで送る。支配人らはその送られて来た品物と、干漁や魚油などの産物と交易して、松前の請負人へ運送する。請負人は本州から商船の積んで来たものと、干魚・魚油・毛皮・昆布などと交易するのを家業としている。それらの人たちが仮住居にしている小屋を運上屋という。

領主も家臣も、その領地を請負人に貸して運上金をとり、領内のアイヌの人たちからは租税を取らないので、運上金は扶持（ふち）の代わりである。

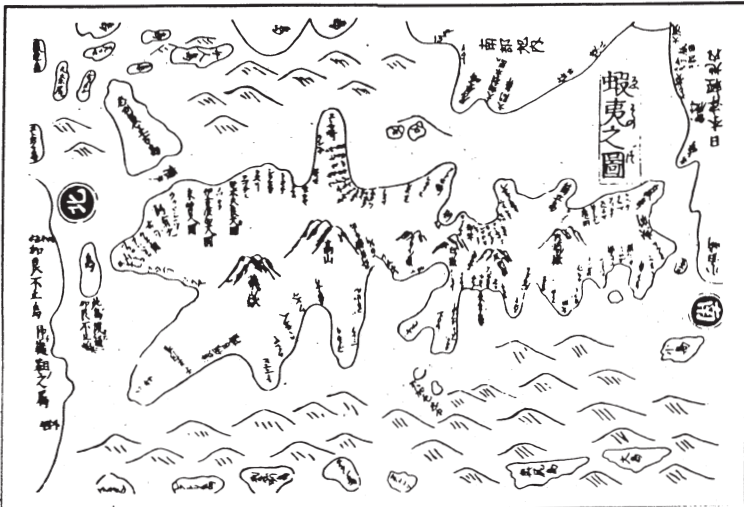
蝦夷地は請負人に任せてあるので、請負人の用事をする者以外は、みだりに行くことは禁止されている。

蝦夷地では、海岸にアイヌの人たちが多く居住しているが内陸には少ない。それで、ま

だ人が足を踏み入れていない深山幽谷が多い。

また、造られた道がなく、勝手に歩いているうちに出来たという道ばかりである。アイヌの人たちはだして歩くので道幅も狭く、わらじをはいて歩くのも困難で、砂浜を往来している。

初めて蝦夷地探険をしたころの蝦夷地の地図



孫との心のきづな

渡辺 ハツエ

十一月に入って間もなくのこ
と、孫娘から久し振りの便りが
届きました。文面は、

「今年もあと二か月と残り少な
くなりました。やっと三年生に
なったなあと思っているうち
に、四か月ちよつとでもう高校
受験です。これからの進路のこ
とが大きく左右されるものなの
で、お父さん、お母さんと真剣
に話し合っています。」

最近では入学試験の方法が少
しずつ変わってきていて、以前
に比べて面接試験のある高校が
増えてきました。それで、近い
うちに学校でも面接の練習が始
まります。

面接では、学力試験だけでは
分からない普段の生活態度や、
人格が問われるので、慎重に取
り組んで行きたいと思っていま
す。そして、いくつかの質問の
中には『あなたの尊敬している

人物は誰ですか』という質問が
あるそうです。もし私はそのよ
うに聞かれたら、『私の祖母を
心から尊敬しています』と、答
えるつもりでいます。

なぜなら、いつか私にも自分
の孫ができたときには、おばあ
ちゃんのような優しい、立派な
祖母になっていたいからです。

私は日ごろから、一日一日を
大切に生きていきたいと思ってい
ます。そして、自分がしっか
りと独立できたときには、私が
赤ん坊のころから可愛がっても
らい、お世話になった親戚の皆
さんにもご恩返しができるよう
頑張ります。

私の友だちの多くは、親戚の
人たちとはあまり交流がないと
話しています。年に一度合った
ぐらいでは、親しみが無いとい
うことでした。だから毎年親戚
の人と逢う度に、とっても楽し

い思い出を残すことのできる私
は、本当に幸せだと思っていま
す。来年、またひとつ成長し
て、おばあちゃんや、親戚の皆
さんと逢えるのを楽しみにして
います。

また、おじいちゃんの墓参り

御通

戦前だと、買い物をする
と月末払いとか、鯉漁
場などでは晦日(きふ)払い
というのが一般的で、ま
た、そんなところが商店
にとつてもお得意さんで
した。「書出し」といわ
れる請求書を持って、掛
取り(集金)に歩くのが
商店の習慣になっていま
した。年末になると、カ
レンダーやお歳暮のほか
に「御通」という買い物
の通帳を持ってお得意さ
んまわり、今年もよろし
くというわけです。

貸売りや月賦は今でも

にも早く行きたいと思っていま
す。」

果たして私は、孫が尊敬でき
るような立派な祖母なのだろう
かと、考えさせられました。

―― 終わり ―

ありますが、この買い物「通
帳」だけはさすがに無くなり
ました。ただ葬儀などのとき
に使う習慣は最近まで残って
いたようです。



古平ホトトギス会

年の暮れ心ばかりが先走り 芥藤波留
 手造りの黄粉も届き年の暮れ 山口悦子
 冬漬(ふゆな)の牙むくさまに岩咬めり 越野敦雄
 小春日和を眩しく浴びる露天風呂 大和田絵伊
 釣人に馴れ突堤の冬かもめ 福井幸平
 初雪の十日遅れし窓辺かな 仲谷美砂
 雪道の散歩邪魔にはならぬ杖 大島喜恵
 還暦を無事に過ごせし松飾り 関口勝志
 贅沢に活け一ト時の冬薔薇(さうび) よしざき理
 言の葉を忘れさうなる冬ごもり 山口浪
 満玉に今年の願い吊りにけり 仲谷比呂子
 秋高し青海原のおほどかに 越野清治
 年越しの四軒分のお重箱 室谷弘子



石井愛子

介護保険親孝行も宙に浮く
 クリスマスツリーだけ明るく世は暗い
 イチローさん口マン華咲き実を結ぶ

北政道

日の丸と君が代続く平和国
 国民も思い国債背負う国
 二〇〇〇年因果果報もまた回る
 天の声なる宗教の悪あがき
 診療所頼りで今日も生きて居る

あとがき

▽今年もどんなことがあつたのか忘れるくらい事件やニュースがありました。最後の最後まで気をもませ

たのが二〇〇〇年問題でした。深刻に考えるひと、何も起きないよと樂觀するひと、無頓着なひと、そんな人たちをのみ込んで、平成十二年——というより、今年には西暦二〇〇〇年を迎えてはまるので要注意。